

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 准教授

氏名 塚本篤士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

動物の専門家として、実験動物と対峙するためには高い倫理観が求められる。獣医療倫理・動物福祉学や実験動物学の授業を通し、動物の専門家に必須となる実験動物福祉の考え方を教育している。また、実験動物学の講義・実習を通して近年社会ニーズが増加している実験動物学分野の人材（管理獣医師・実験動物技術者）を養成するとともに、周辺領域の分野にも対応できる人材の育成を行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
実験動物学	獣医学科	必修	3	144
実験動物学	動物応用科学科	必修	2	165
実験動物学実習	獣医学科	必修	2	161
実験動物学実習	獣医学科	必修	4	132
実験動物学実習	動物応用科学科	選択	3	59
実験動物学技術者1級夏季特別実習	動物応用科学科	自由	4	15
獣医療倫理・動物福祉	獣医学科	必修	2	155
獣医学特論Ⅰ	獣医学科	必修	5	1
獣医学特論Ⅱ	獣医学科	必修	6	2
卒業論文	獣医学科	必修	6	2
科学の伝達	動物応用科学科	選択	4	2
卒業論文	動物応用科学科	必修	4	2
比較動物学Ⅰ	獣医保健看護学科	必修	1	77
実験動物学特別実験Ⅲ	獣医学専攻	選択	1	1
実験動物学特別演習Ⅲ	獣医学専攻	選択	1	1
動物応用医科学特別演習-Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
動物応用医科学特別演習-Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	2	2
動物応用医科学特別研究-Ⅰ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	1	1
動物応用医科学特別研究-Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	2	2
動物応用医科学特論Ⅱ	動物応用科学専攻（博士前期課程）	選択	2	2

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学やICTの進展、グローバル化の促進により、近年獣医師に求められるスキルが高度化している。獣医師が対応すべき課題は分野横断的なものが多く、単一の学問では対応ができないケースが増加している。動物応用科学科に於いても動物生命科学という幅広い学問の1つのピースとして実験動物学が存在し、行動学や生化学、発生工学、感染症学など様々な領域との関連性がある。

これらのことより、実験動物学の知識や技術が獣医学や動物生命科学でどのような位置づけにあるかを明確にするとともに、応用力、問題解決能力を引き延ばし、幅広い課題に対して柔軟に対応できる実践的な人材育成を行うことを重要視している。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

実験動物学は総合的な学問であり、多くの獣医学領域の学問とオーバーラップするという特徴があることから、周辺領域の学問との接続を意識して教育を行い、学生が学んだことをより多くの場面で生かせるように工夫をしている。動物応用科学科の学生に於いても実践的ジェネラリストの育成の観点から、周辺領域との連携は重要であり、他分野との関連性が理解できるよう教育を行っている。実験動物学は倫理学の側面もあり、動物の専門家として動物と対峙する上で基本になる実験動物福祉を理解させることを重要視している。

一方、本学の特色上ライセンス教育の充実も不可欠である。獣医学科では獣医師免許、動物応用科学科では実験動物技術者1級の資格取得をサポートするため、知識・技術を効率よく吸収できるようなわかりやすい授業を心掛けている。

卒業研究では、思考力、応用力、情報リテラシー、プレゼンテーション能力など社会人全般に必要なスキルを引き延ばすことを重要視して教育を行っている。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

一部の授業において臨床推論形式の演習型授業を取り入れ、学生がより主体的に取り組めるよう工夫を行っている。

(2) ICTの教育活用

有

昨年に引き続き授業では学理やazamoodle, Google Driveを活用して学生と情報共有を行っている。卒業研究の指導においてもGoogle DriveやMicrosoft teams, Google Meetを積極的に活用している。ICTの活用により、学生のタスク管理、グループワークでの研究ディスカッションを効率化している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（１）教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

授業ではできるだけ簡潔かつポイントが明確になるよう心掛けている。要点を最初のスライドに1枚でまとめ、ポイントが一目でわかるようにするとともに、適宜演習問題をまじえ、飽きさせないよう工夫を行った。また、学生の負担を考慮し、スライドの長さをなるべくコンパクトに収めるようにした。

（２）学生の理解度の把握

B

授業については小テストや定期試験の結果を元に学生の理解度を把握した。卒業研究や大学院の研究指導については、こまめにディスカッションを行い、都度理解度を把握しながら指導を行った。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

適宜課題を出し、自主学習を促した。

（４）学生とのコミュニケーション

A

対面、オンライン、メールを含め、学生からの質問に対しては適宜対応した。

（５）双方向授業への工夫

B

実習では適宜受講生に声をかけて個別にアドバイスをしたり、学生からの質問にも対応するようにしている。一方、講義での双方向授業の推進については課題がある。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

授業や試験の内容は、国家試験やコアカリキュラムに準拠させている。試験問題は国家試験に慣れさせるため、類似形式の問題を多く出題するようにしている。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価の結果は概ね良好であり、授業に対する取り組みが評価されていた。実習では代替法を用いた事前学習について好評を得たため、今年度は代替法教材の使用頻度をさらに増加させた。実習の進行について特段問題がなかったため、基本的には前年を踏襲する形で実施したが、一部実習の進行を見直し効率化させた。

（2）（1）の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

実習については代替法教材を増やしたことにより、教育効率が向上した。

（3）（2）を踏まえた次年度の取組

実習では前年の内容を踏襲するとともに、新たな教材の作成に取り組む予定である。講義については引き続きポイントがわかりやすい授業を心掛ける。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

上述のように、ポイントのわかりやすい授業を実施する。実習では様々な教材の導入や開発を行い、学習効率の向上を図っている。

（2）（1）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

実習教育の方法について、これまでに学会シンポジウムや機関誌の執筆を依頼され、発表してきた。また、動物応用科学科の授業は、実験動物技術者1級の合格率の向上に寄与している。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

開講されているFD研修会には参加するようにしている。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

学生が社会に出てから分野横断的な課題に対処できるよう、実験動物学と周辺学問領域の連続性をよりクリアに説明するよう心掛ける。今年度は実習において分野横断的で複合的な課題を出し、学生に多面的なものの見方について考えさせるような機会を作った。しかしながら授業におけるアクティブラーニングの促進については引き続き課題があり、思考力や、問題のとらえ方を引き延ばすために演習やディスカッションの比率を上げることが必要と考えている。ICTを活用したオンライン教育は情報伝達効率が高い一方で、学生のモチベーションを継続して維持する上での課題がある。卒業研究の指導では学生の意欲を向上させるために指導の頻度や方法をさらに改良していきたい。ライセンス教育の対応についてはこれまで通り、知識・技術を効率よく吸収できるようポイントをわかりやすく説明したい。長期的には実験動物学の非常に広い学問領域の中で専門家としてカバーできる分野を広げていきたい。